

委員会行政視察報告書

委員会名		民生福祉常任委員会		
活動委員名				
豊川 泰市		斗 甚 英 文		
斎田 量子		畑山 親弘		
斉藤 重美				
梶野 瑞 展 雄				
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
226,525		4,694	37,754	231,219
期 間 (年月日)	29年1月24日 ~ 29年1月25日 (1泊2日)			
視察事項	子育て支援インシユルシユについて ほくと療育カルテについて			
視察先	北海道 函館市 、 北斗市			
内容及び成果				
函館市の「子育て支援インシユルシユ」について この事業は、新しく「ほくと」の子どもの総合福祉施設として、函館 駅前に設置し、 建物は、函館駅前若松地区で、株式会社NAビルディングが施工 し、地下1階、地上16階の複層ビルに設置する。55㎡に複層ビル 地下1~2階店舗、業務3~4階は公益施設、5階以上は期間貸室84戸と なっている。 子育て支援インシユルシユは、この複層ビル3階と4階に設けられ 3階は「ほくとみらい館」、4階は「ほくとキッズプラザ」で、多目的 ホール、3ボウリング、シアター、テラス、託児室、相談室、授乳室、おむつ替え 室、トイレ、多目的室、フットボールコート等が設けられている。 運営は「ほくとみらい」が中心で、運営グループに協賛を求め、 いそが 職29年10月15日付で「ほくと」で、これからいそがと協賛を 55㎡に3階~4階、整備費は3年間で20億円、施設管理料は1億円 とされている。				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

平成18年 11月 26日 金曜日 午後 5時 30分 まで。少子化、核家族化が進行し、地域の  
紐帯が弱体化する中、孤立しがちな子育て家庭の一環として適切な対応が  
必要。子育て支援のワンストップサービスとして、総合案内相互窓口を開設  
している。

案内内容は、大晦日・元日は休日に、午前10時～午後6時まで、電話・FAX・E  
メール相談のほか、利用料金は無料である。

また、業務は子育て支援サービス情報提供、助言、各種協働との窓口との連絡  
調整、子育ての悩み等の相談支援、利用者への周知広報活動、普及活動等  
について、この人員配置は、保母士有資格者1名、補助者2名  
と配置されている。

今回の課題としては、10月以降の対応について、利用件数の増加（2007年より  
積極的）と問い合わせ、利用件数の増加、関係機関との密接な連携の必要  
とのことであった。課題は、資料1、2、別添4に示す。

### 「ほくと療育カルテ」について

北上市議会、北田議長、同議会文教厚生常任委員の一回席上、保健福祉課長、子育て支援  
課長及び適切な事業内容について説明があった。

「ほくと療育カルテ」、障害者に社会的取り組みは「医療、福祉等」の専門職に  
おいて把握できるが、それ以外の機関に属し、一つの情報としてまとめる方法が  
ない。しかしながら、切れ目のない支援や療育が不可欠であることから  
このカルテは、実に有効的な仕組みであった。

療育カルテは、子どもに適切な情報が一元化し、共有し、共通理解がは  
かれる。情報の効果の期待できる先見の手帳である。

しかし、その効果は、ある程度、カルテは、本人と家族の目的で  
あり、家族が積極的に活用し、その効果が功的で限定的にあら  
る可能性がある。

また、カルテを紛失した場合、情報は、情報が失われること、それに  
対応できない、理解のずれがある。

担当課長の話では、療育カルテは、不能ではない。しかし、改善改良  
していかねばならないとの話であった。印象的でした。

また、詳しくは、別紙、資料2を参照して下さい。また、子育てワンストップ  
化については、子育て支援課、中心、母子関係、保健士が中心で、子育て  
支援センターの窓口、利用件数の窓口でも対応している。

以上 豊川 泰幸 岡山 親弘

## 民生福祉常任委員会先進地視察報告

民生福祉常任委員会

副委員長 舩 甚 英 文

- 1、日時： 平成29年1月24日（火） 13：30～15：00
- 2、場所： 函館市
- 3、視察テーマ：「子育てコンシェルジュ」について
- 4、視察先 「はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ」

①事業の目的及び経過は別紙の通り、資料1・資料2

### ②感想

建物は1・階が商店街の一部で3階・4階が施設だったようです。驚いたのは子どもの遊び場の大広間に、大きなネットが張られ、そこに入って自由に動けまわれる場所があったことです。子どもを自由に遊ばせておいて、保護者が相談をすることができる安心できる場所だということです。相談員は年配の保育所の保母経験者があたり、若い方は、施設の管理等にあたるということで、対応している。指定管理制度を初めから導入しているようです。十和田市で行うとすれば、トワレに相談員を配置して可能ではないかと思ったことです。トワレの社会福祉協議会が場所を移転する話がありますので、ちょうど良いのではと考えます。

- 1、日時： 平成29年1月25日（水） 9：00～10：30
- 2、場所： 北斗市
- 3、視察テーマ：「ほくと療育カルテ」について
- 4、懇談の内容と感想

### (1) 子育て支援窓口のワンストップ化について

①そもそも、子育て支援窓口のワンストップ化から始まった。「子ども子育て支援課」に「保育係」と「子育て支援係」を業務の見直しで、別紙のような所管業務の見直しを行っている。

②その中で、別紙のように子育て支援事業をいくつも行っており、十和田市でも学ぶべきことは多いと思われる。特に、子ども医療費の無料化や、学校給食費の助成など参考になりました。

### (2) 療育カルテについて

①「療育カルテ」については、自閉症児等の発達障害に対し、幼児期から児童期を経て、就労の段階までの成長記録と支援の経過・成果等が「保健・医療・福祉・教育・就労機関等」に引き継がれ、共通理解のもとで一貫した支援を受けることができるよう、『療育カルテサポートグループ』とともに、療育カルテの普及を進めているという

ことです。

- ②「療育カルテ」は、A5版サイズの紙厚の綴れるシートをファイルしています。それは、①生育シート、②「医療シート」、③「療育・保育シート」、④「教育シート」、⑤「社会生活シート」からなり、必要な用紙が追加出るようになっています。また、必要な相談機関なども案内されている。
- ③十和田市でも「療育カルテ」ができれば、それに超したことはないが、障がい児を持つ親の考え方が、実施についてくるかという問題がある。北斗市は渡島コロニーという施設群あり、障がい者にとって支援しやすい歴史的な環境にあった。障がい者にとっては、非常に前向きな考え方であり、大いに参考にしたい施策であろうと思う。

## 委員会行政視察報告書

民生福祉常任委員会

氣田 量子

日時 平成<sup>9</sup>2年1月24日～25日

視察先 北海道函館市・北斗市

### ・「子育て支援コンシェルジュ事業」について

少子化や核家族化が進行し、地域の結びつきが希薄化する中、とかく孤立しがちな子育て家庭のニーズに適切に対応するとともに、こころに負担感の解消を図るため、子育て支援に関するワンストップサービスとしての総合案内・相談窓口を開設する。

函館駅前地区の複合ビル（キラリス函館）内の「はこだてキッズプラザ」の指定管理業務の一部として、子育てに関する情報提供などの利用者支援等を行う「子育て支援コンシェルジュ事業」を位置づけている。

子育て支援コンシェルジュは、専任の園長歴30年以上の保育士有資格者が1名、業務を補助する子育て支援コンシェルジュは中堅保育士有資格者2名を配置し、各種の研修を受講している。

今後の課題として、利用件数が伸びないことから周知の強化が必

要。市内に13か所ある「子育てサロン」でも相談に応じていることも利用数減の原因とも考えられる。今後は土日・祝祭日も相談に対応できる強みを活かしながら、知名度を上げていく必要がある。

十和田市と函館市は比べようがないほど人口が違うが、このような取り組みは大いに参考にして、子育てコンシェルジュを常設で開設出来るよう、十和田市の子育て世代には必要だと認識しています。

#### ・はこだてキッズプラザについて

はこだてキッズプラザの現地を見学させていただきました。思いっきり遊んで、子どもと親と一緒に育つ場所、全身を使った遊びを通して子どものオドロクチカラを育み、子育てを応援する全天候型のプレイランド。入った瞬間からワクワクするようなつくりで、子どもと親も十分に楽しめる十分な広さと設備には驚きました。一日子どもを遊ばせておける遊具、特に雲のような形をした巨大なネット遊具は圧巻でした。持ち込みのお弁当など飲食ができるくつろぎのスペースもあり、函館の子どもや親は幸せだなあと羨ましくなりました。駅前地区の活性化も考えての施設という点から、十和田市の商店街にもこういったプレイランドがあれば商店街活性化につながっていくのではないかと思います。

・ほくと療育カルテについて

自閉症や発達障害・障害がある子どもは、切れ目のない支援や療育は不可欠であるが、生活していく上で学校への入学や卒業、就職などのライフステージが存在します。その移行期の切れ目をつなぐための情報伝達手段が無かった。既存の制度にある母子健康手帳のように、公的な制度としてサポートすることにより、切れ目なく、正しい情報の元に一貫・継続して支援する方法として「療育カルテ」を組みました。

療育カルテがあればこんなことが期待できます。

- ◆家族からの発信で子どもにかんする情報が一元化し、子どもの共通理解が図られます。
- ◆情報の共有によって、子どもへの丁寧な支援や教育が可能となり、子どもと家族の願いや思いを大切にしたい引継ぎがされていきます。
- ◆家族と関係者が一同に介した引継ぎがしやすくなります。
- ◆地域の関係機関との連携がスムーズになり、地域社会への理解が促進されます。
- ◆緊急時に子どもの情報がすぐに把握でき、素早い適切な医療・療育・保育・教育等の支援が受けやすくなります。

- ◆行く先々の窓口で同じことを何度も説明しなくて済みます。
- ◆子どもと巡り合う関係者や関係機関が、子どもと家族を中心にれんけいすることで子どもの一生涯の一貫・継続した支援・教育が可能となります。
- ◆子どもの自分史となり、親亡き後も引き継がれます。

この「療育カルテ」が更に周知されていけば、関係機関への理解が増し、利用者や家族が嫌な思いをすることが手続き等スムーズにいくのではと感じました。利用は限定的なので、まだまだ、改善は必要ですが、北斗市のように市民の為、利用者の為という強い思いで十和田市でも検討して欲しいです。

#### ・北斗市の子育て支援窓口のワンストップ化について

何といたっても窓口のワンストップ化は素晴らしい取り組みです。子育て支援課に保健師さんを3名移動して窓口をワンストップ化し、既存の子育て支援課の業務にプラスして、妊娠届や産前産後のケア、不妊治療やロタウイルス予防接種助成など切れ目のない支援とはこういうことではないかと思いました。医療費の助成も、高校生まで所得制限なしで無料ということも早い時期から行っていて素晴らしい。



北斗市の子育て支援はどれをとっても考え方が柔軟で、市民第一で業務が進められていると感じました。十和田市も中学生まで医療費無料が昨年より始まりましたが、すべての子どもが平等に支援が受けられるように、所得制限をなくすべきなのではと思いました。

委員会行政視察報告書

委員会名	民生福祉常任委員会			
活 動 委 員 名				
畑山親弘	舩甚英文		氣田量子	
齊藤重美	堰野端展雄		豊川泰市	
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
226,525		4,694	37,754	213,219
期 間 (年月日)	平成29年1月24日 ～ 平成29年1月25日 (1泊2日)			
視察事項	「子育て支援コンシェルジュ事業」について			
	「ほくと療育カルテ」について			
視察先	北海道函館市・北海道北斗市			
内容及び成果				
<p>函館市 子育て支援コンシェルジュ事業について</p> <p>目的は少子化や核家族化が進行し、地域の結びつきが希薄化する中、とかく孤立しがちな子育て家族のニーズに適切に対応するとともに、心の負担感の解消を図る為、子育て支援に関するワンストップサービスとしての総合案内・相談窓口を開設した。</p> <p>実施手法としては函館駅前地区の複合ビル(キラリス函館)内の「はこだてキッズプラザ」の指定管理業務の一部として、子育てに関する情報提供等の利用者支援等を行う「子育て支援コンシェルジュ事業」を位置付けている。</p> <p>事業の内容・効果は、ほぼ毎日実施で予約優先(Tel・fax・Eメール・面談)・無料・業務としては、各種子ども・子育て支援サービスに係る情報提供、助言等 利用に係る関係窓口(機関)との連絡調整・子育てに関する悩み等の相談対応・広くサービス利用者への周知を図る為の広報・啓発活動の実施。</p> <p>事業の効果としては、平成28年10月15日の事業開始から3か月が経過し、各種の広報媒体で周知を行ったが、累計利用件数が低迷しており効果を判断するまで至っていないとの事。</p> <p>今後は、土日・祝日も相談に対応できるという強みを生かしながら、知名度を上げていく必要があるとの事でした。</p>				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

今後の課題としては、利用者の低迷とのことでした。

利用者の増として、PR方法を検討していくとのことでした。

今後の展望については、より積極的な活動などの利用促進に向けた取り組み等の検討及び実施  
各種関係機関及び相談窓口とのより密接な連携

函館市の人口は266千人と十和田市の4倍も人口の多い大都市でした、子育て支援コンシェルジュ事業は大変良い事業と思いましたが、十和田市の予算を考えると難しいのではと思いました。また 十和田市は広範囲で親も子供の送り迎えも大変だと思いました。

## ほくと市医療カルテについて

北斗市の療育カルテは、平成13年度から北海道圏域で一貫・継続した支援・教育を行うための取り組みとしてグループ研究(保護者を含む、保険、療育、教育、福祉などの多職種で構成)のメンバーが中心となって作成したものです。北斗市では、自閉症児等の発達障害児等に対し、幼児期から児童を経て就労の段階までの成長記録と支援の経過・成果等が「保険・医療・福祉・教育・就労期間等」に引き継がれ、共通理解のもとで一貫した支援を受けることができるよう、「療養カルテ推進グループ」とともに療育カルテの復旧を進めているとの事でした。療育カルテガイドとして、発達に障がいがある子とその家族は、人生のなかで数多くの機関や専門家と巡り会います。家族との信頼・協力関係のもと、その子どもがもつ良さや個性がそれぞれの機関や専門家の間で連携・協調され、そして丁寧に引き継がれて子供とその家族の一回きりの時間、一回きりの人生が豊かで実りあるものであってほしいと願っています。療育カルテ「つながるって」には、子どもたちや家族、支援、教育に携わる人たちのそんな想いがこめられています。

療育カルテは、一人ひとりの子どもの成長・発達へのより良い支援や教育のために活用され、保健・療育・保育・教育・医療・労働からの支援を一貫・継続して行うための一つの方法として存在します。また療育カルテは、本人と家族のものであり、家族が所持し、家族の判断によって必要な時に活用されます。療育カルテの内容を「どの機関」「誰に」「どの程度」「どのような形で」提供するかは家族の判断で行われます。家族から情報を提供された関係者は、個人情報保護のためにも、知り得た情報を家族が了解した以外に活用することは出来ない。

北斗市は全国で子育て支援対策については、全国でもかなり進んでいるのではないかなと感じました。特にほくと療育カルテが進んでいるとの事でした。カルテの予算も私の思っていたよりもかなり少額でしたので、これだったら十和田市も対応できるのではないか実施に向けて頑張っていきたいと思いました。

## 委員会行政視察報告書

委員会名	民生福祉常任委員会			
活 動 委 員 名				
堰野端展雄	齊 藤 豊 美			
畑 山 親 弘	豊 川 泰 市			
舛 甚 英 文				
氣 田 量 子				
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
226,525		4,694	37,754	231,219
期 間 (年月日)				
視察事項	1、子育て支援コンシェルジュ事業について			
	2、ほくと療育カルテについて			
視察先	北海道 函館市・北斗市			
内容及び成果				
1、子育て支援コンシェルジュ事業について				
函館市では、少子化や核家族化が進行し、地域の結びつきが希薄化する中、とかく孤立しがちな子育て家庭のニーズに適切に対応するとともに、心の負担感の解消を図るため、子育て支援に関するワンストップサービスとしての総合案内・相談窓口を開設した。				
事業の実施は、函館駅前地区の複合ビル（キラリス函館）内の「はこだてキッズプラザ」の指定管理業務の一部として、子育てに関する情報提供や相談業務などの利用者支援等を行っている。指定管理者には、市や北海道の様々な子ども・子育て支援制度に係る研修をさせた専任の子育て支援コンシェルジュ（保育士有資格者）を1名、業務を補助する子育て支援コンシェルジュ（保育士有資格者）2名を配置させている。				
事業の効果は、まだ開設して3ヵ月ということもあって、各種の広報媒体で周知を行っているが、利用件数は低迷しており、効果を判断するまでには至っていない状況とのことであった。しかし、函館市では市内に13か所ある「子育てサロン」（地域子育て支援拠点事業）や「マザーズ・サポート・ステーション」（利用者支援事業）が開設されており、また、土日・祝日も相談に対応できるという強みを生かし、よりきめ細やかなサービスの提供ができており、今後は利用促進に向け、積極的な周知活動を検討していくとのこ				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

とであった。

ちなみに、指定管理となっている「はこだてキッズプラザ」は平成25年3月に内閣総理大臣認定を受けた「函館市中心市街地活性化基本計画」に登載された新設の公共施設で駅前・大門地区の交流とにぎわいの創出、特に子育て世代が駅周辺に足を運ぶようにと建設されたもので、平成28年10月のオープン以来、予想以上の賑わいを見せているとのこと。総事業費は約20億円。指定管理委託料は年間7,000万円。施設内を見学させてもらったが、今風のコンピューターを駆使した、子どもたちが十分に楽しめる空間となっていた。施設はうらやましい限りであった。

## 2、ほくと医療カルテについて

取り組んだ経緯については、北斗市には渡島コロニー（侑愛会）という施設群があり、とりわけ障害者にとっては支援のしやすい環境にあり、自閉症に対する社会的な関心も集まっており、他の自治体に比べると恵まれた環境にあったこと。自閉症等をはじめとする障がいがある方については、切れ目のない支援や療育は不可欠であり、生活していく上で学校への入学や卒業、就職など様々な移行期の切れ目をつなぐための情報伝達手段が無かったこと。子どもの成長に応じて、支援や療育等に関わる専門家が交代するなど、支援する側の変化により、それぞれが把握した客観的な「情報」は引き継がれるが、ノウハウなどの情報は引き継ぎが難しく、重要な部分が喪失されてしまうこと。障がいを持った子どもは、複数の機関に相談をし、記録としては残っているが、継続した形で残されておらず、記録の内容もバラバラであり統一性が無いため、重要な気付きやアイデアが散逸されてしまうこと。今までは保護者が情報を集約し、それぞれの支援者に対して説明を行っていたが、言い忘れや記憶があいまいであったり、何度も同じことを聞かれ、記憶違いにより間違った情報を言ってしまう等、情報の変容が発生してしまうこともあったこと。これらのことから、既存の制度にある母子手帳のように、公的な制度としてサポートすることにより、切れ目のない、正しい情報の元に一貫・継続して支援する方法として「療育カルテ」に取り組んだとのこと。

効果は、かなり良い結果が出ているとのこと。ライフステージごとの情報の引き継ぎという本来の目的が効率的に行えるようになったという本来の目的もさることながら、二次的な効果があったという。それは、突発的な保護者の入院により、時間がない中で急な支援を必要としたときに、必要な事項がまとめられているため、すぐに対応出来ること。連絡帳代わりとなるため、短期入所や施設利用など別々な利用先において同じ一冊で済むため、施設ごとにいくつものファイルを保有しなくてすむこと。障害年金の申請などに必要な生育歴などの情報がまとめられているため、他の公的手続きをとる際に参考になることなどである。

また、今後期待されることとして、子どもと家族にとっては、家族からの発信で子ど

